

☆幹事報告

幹事 岩下 廣美 君

1. 例会変更通知

4月18日(木)の例会は4月7日(日)の4RC合同観桜会と振替休会になります。その他同クラブの4月のプログラムが来ております。

高鍋 R C

2. 次の例会(4月3日)は4月7日(日)の「4RC合同観桜例会」と振替になります。

☆出席報告

委員長代理 田村 勝二 君

会 員 数	29名
例 会 出 席 者	21名
出 席 率	$\frac{21}{29} \approx 72\%$
メークアップ者数	3名
修正出席率	83%
欠 席 者 名	神宮寺、宮本、藤詞、赤木、村岡

☆会員卓話

田村 勝二 君

卓話者として此処に立つのは14回目になります。

皆様ご承知の通り、私は酒屋でございます。親父の時代から酒や焼酎を作っており、そのカスを家の下の川に流しておりました。その後、水質汚濁法の施行により、川にカスを流す事は罷りならぬということになり、やむなく今のような酒類の販売をすることになりまして、もう20年になります。いつも卓話は酒の話、焼酎を作っていた頃の話、そしてアサヒ、サッポロ、キリンのビールをそれぞれいたしておりました。今回も酒の話をもっと思っていたところ、先日のIMに出席し、渡辺綱纜君の基調講演を聞きまして、その当時は懐かしく思い出し、急遽、趣向を変えまして、その頃のお話を致したいと思います。実は渡辺君とは中学時代同じクラスでした。もう60年前になりますが、ありありとその当時が思い出されます。小学校6年迄、広瀬小に在学してそれから宮崎中学校に入学致しました。何回目かの授業で、奥村という国語の先生の時間に「おいと云うたが返事がない」という書き出しで始まる夏目漱石の草枕の一節である文章を教えてもらいました。皆様もご存知と思いますが、「坂を登りながら考えた。地にはたらけば角が立つ、情に竿させば流される、とかくこの世は住みにくい」。当時中学1年、12才頃の私は殆ど意味が理解出来ませんでした。又、今思い出すと「地にはたらけば角が立つ、情に竿させば流される」の意味をしみじみと味わう年代になりました。

☆会員卓話

正岡文郁君

臨済宗の禅堂生活について No.1

モリナガソウコウロウシ

元花園大学学長の盛永宗興老師は、「禅僧は枯淡でシンプルでなければならない」と云っておられる。私もそう思うのでそうなる為の禅堂生活について紹介してみたいと思います。

◎初行脚一志を立てて郷関を出ず

今春学窓を巣立って、僧堂修行の大決意を固めた(a)寺の弟子(b)という好青年の体験を主題として、禅堂生活の実際を紹介することにします。

一人前の禅僧になろうとする禅寺の山僧は僧堂の修行という実習過程を絶対無視するわけにはいかない。

自らの実参実究なくして禅の根源的体得はありえません。体験の伴なわぬ口耳の学で真に自分や人が救えるとは思えません。されば宗門の掟は大学卒といえどもこの過程を経ぬかぎり、住職資格も認めません。

彼は禅に生きて人々の生活を幸福なものに設計指導する仏弟子の使命を痛感、まず宗旨蘊奥を究めることにしました。

四月のある朝、師匠の萬端の指図で古来からの雲水独特の旅装をととのえた。紺木綿の衣に白脚絆、首に頭陀袋、太紐で振り分けにしました。

袈裟文庫（内に麻袈裟、日用品、外に持鉢、経本、剃髪用具をくくりつける）を前側に、雨合羽、白衣の風呂敷包みを後づけにしてひっかつぎ、網代笠を携えて

一同に見送られつつ落花の郷里を出発しました。

まさに決意に燃えた新人生の門出であります。

(No.2以降は又の機会に掲載します)

お彼岸

ロータリーの友より

彼岸とは梵語でパーラミター（彼岸より此岸へ至る）、悟りの世界へ渡ることをいう。暦の上では春分、秋分の日を挟んだ前後七日間で、この一週間は仏教徒にとっては仏道修業週間といわれる。悟りの世界に渡るには六つの実践徳目がある。

- ①布施行 布施とは自分の持っている財や心を広く施すこと。
- ②持戒行 日々の暮らしの中で道徳を守り、他人に迷惑をかけないこと。
- ③忍辱行 ささいなことで腹を立てないこと、苦しみに耐えること。
- ④精進行 努力を惜しまない。単なる努力ではなく、正しい努力で全力を挙げて事に当たること。
- ⑤禅定行 心を静かに持ち、反省をわすれないこと。
- ⑥智慧行 物事を正しく見据える智慧、なんの曇りもなく正しい判断力を持つこと。

大阪城南RC 岡部 泰鑑